慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 日本田制史(横山由清著, 大岡山書店發行) |
| Sub Title | |
| Author | 松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1927 |
| Jtitle | 史学 Vol.6, No.1 (1927. 3) ,p.142- 143 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270300-0142 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

とその意義を説明してゐる一例を以ても、著者が古典學者として該博な知識を有すること丶共に、其の考證が如何に綿密であるかを知り得るのである。その他、神社や、動植物の考證も、詳細を極めたものであるが、有名な國引の條などを、「これは必ずしも歴史的事實の假裝でもあるまいから、只神話と見ればよい。」とあつさりと片づけてゐる點や、神社の祭神の考證よりも、其の位置の考證に力を入れてゐる點など、物足らなく思はれる所もないではない。

然し、本書は其の博引旁證、精緻なる觀察等よりするも、確に出色の文字たるを失はない。尚、其上、書中に、著者の想像による天平時代の出雲國の圖、及び各郡の圖十一葉を挿入したことや索引を附したことは、讀者にとつて非常に便利である。

最後に、著者及びかゝる地味な研究の出版を喜んで引きうけた大岡山書店に敬意を表すると共に、一斷以て、更に他の風土記の考證をも出版されんことを、大岡山書店に特に望む次第である。

（今宮　新）

## 日本田制史

（横山由清著　大岡山書店發行）

一の國文化狀態を知るには、多くの標準となるべきものがあらうけれども、出版事業の隆否如何も、また重大な標準となるものであつて、知識の普及が、おのづからにして斯業の發展を促し、知識の向上が必然に良書の出版を求むるに至るのである。

現時のわが國に於いても、また出版業は年々盛大となり、その出版書數のごとき、汗牛充棟もたゞならぬ有樣であつて、まさに聖代の盛事として慶賀にたへない次第であるが、しかしその刊行をみるもの、ことごとく良書であるとは斷じ得ない。わが文化を代表し、わが學界を飾るに足る名著に至つては、むしろ寥々たりと言ふのが至當ではなからうか。

而してその理由の一つは、かゝる名著に對する要求の範圍が、極めて狹少なるがために、出版業の盛大にもかゝはらず、それが營利事業である以上、その出版を困難ならしむるからである。從つて、かくのごとき良書の出版は、偉大なる學者の努力はもちろんのこと、他方、出版業者に於いて、學問に對する深き理解と、同情と、大なる犧牲とを必要とするのである。

さきに小金井博士の『人類學研究』を始めとして、其他多くの古典研究に關する良書を出版したる大岡山書店は、今またこゝに紹介しようとする横山由清先生の『日本田制史』を刊行した。吾吾はかゝる良書に接して、その著者に對し、かぎりなき尊敬を拂ふとともに、またその刊行書店の功績を忘れてはならない。

さて横山先生その人に關しては、本書卷末に於ける幸田成友先生の『横山先生に就いて』、竝びに佐々木信綱氏の『横山由清翁稿本竝手澤本目錄』によつて、大體うかがうことができるごとく、先生は幕末より明治初年に於ける碩學であつて、殊に吾々が先生を偉とするところは、先生の學問が『實に堂々たるもので、正確な典據によつて、一歩一歩議論を進められて居られる』のみならず、『先生は今から五十年も前に、既に正倉院、東寺、其の他の古文書を應用され、而も從來の史學が等閑視した、法制史、經濟史

方面を主として研究せられた』ことである。

明治大正の史學の興隆は、主として、政治的方面にかぎられた舊史學の、狹隘な研究範圍を脱して、國民生活のあらゆる部門を研究對象となすに至つたことをその一特徴とするのであるが、就中、法制史、經濟史のごときは、國民生活の闡明には、最も重要な部門であり、さうしてわが横山先生が、實にその研究の先驅者であり、開拓者であつたのである。而して、先生の法制史關係の遺稿及び材料が、東京帝國大學法制史研究室に寄托せられたのであつたが、不幸にも、かの大震火災によつて、すべて灰燼に歸してしまつた。誠に惜みてもあまりあるものである。しかし、先生のごとき學界の偉人は、その名を永遠に傳ふべきであり、そのためには先生の遺著を刊行することが最良の方法であるのであつて、その著述中、纂輯御系圖、皇位繼承篇、田制篇、又尚古圖錄の如きすでに公刊されたものを除いて、寫本でのみ傳つてゐる食貨志略、田制私考、及び印刷せられた雜誌とはいへ、今日見ることの稀な學藝志林に掲載せられた諸論文を一つに集めて出版したのが本書である。

まづ食貨志略は田制と戸口との二部に分れ、いづれも、上古、中古、近古、近世の四部に亘つて、その沿革變遷をのべられたもの。田制私考は、大化前制地、大化改新制地、白雉改制、令前制地、大寶田令制地、慶雲改定租地、和銅改定制地、口分田、地子田、不三得七、里制、洛陽地制、餘論の十三章に分れて、主として、大古より中世にいたる田制をのべられたもので、日本法制史經濟史の基礎的研究である。附錄として、刑法史略、日本貴族沿革論、日本上古賣買起原及貨幣度量權衡考、日本人種竝良賤の別古代陶器考、本朝古來戸口考、婚禮通考が收められてゐる。その論旨は、時として重複をまぬかれないものもないではないが、いづれも甚だ精緻であり、また往々事物の語原的解釋を試みられたことも特色であり、さうして單に法制經濟の方面のみならず、人類學、考古學、風俗史等にまで及んでゐる。その博學と、趣味の廣さとには、實に驚嘆の外はない。

吾々はかくのごとき偉大なる先人の遺著に接して襟を正うし、さうして吾々自身の學的研究態度を反省しなければならない。

（松本　芳夫）

## 琉球古今記

（伊波普猷著　刀江書院發行）

薩南から臺灣にいたるまで點々として浮べる南島を思ふとき、誰でも一種の詩的憧憬の念をそゝらないものはないであらうが、南島が特に吾々の心をひく所以は、それが單に吾々の詩情に訴へるからではなく、その言語、宗教、或は風習において、古代日本の面影を反映せしむるものがあり、われ〳〵の祖先の生活が現在なほ南島人の生活の中に保存されてゐるからである。從つて近時南島に對する研究と興味とは益々高まりつゝあるが、この時に際して伊波普猷氏の『琉球古今記』を得たことは、南島研究者にとつては大なる歡喜でなければならぬ。伊波氏は自身南島人である關係からも、南島研究の權威であり、殊に南島の萬葉集ともいふべき『おもろさうし』の研究においては、第一人者をもつて許さ